

令和7年10月3日

事業報告

講座名	山口ひとものがたりセミナー第1回（近代化の礎「萩」の歴史とそこに生きた人々） （講師：萩博物館統括学芸員 道迫 真吾 氏）
日時・場所	令和7年9月27日（土）10:30～12:00 セミナー室1
参加者数	39名

1 概要

講師：道迫 真吾 氏（萩博物館統括学芸員）

演題：「萩博物館の秘宝に見る「長州ファイブ」の活躍-日本近代化の立役者たち-」

道迫氏は、専門は明治維新史、洋学史で、2015年に世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産—製鉄・製鋼、造船、石炭産業—」のうち、萩反射炉をはじめとする萩市の5つの構成資産を中心に調査、研究をされている。

講演は、昨年英国の個人より萩市に寄贈されたという、井上勝が恩師ウィリアムソン教授へ贈った逢坂山隧道（トンネル）竣工記念小箱の写真など、大変貴重な資料も交えてわかりやすく解説された。また長州ファイブは、留学を果たすための多額の資金調達や言葉の壁、差別、労働をしながらの勉強など、さまざまな困難に直面しながらも、日本の近代化を成し遂げるという強い志のもと無事留学を終え、最新の技術を日本に持ち帰ったという、5人の強い思いやエネルギーの伝わる大変興味深いお話だった。

2 <写真>

